



日本維新の会は自民党との政策協定の中で、「政治改革」の課題として国会議員の定数削減を絶対条件としています。民主主義の根幹に関わる問題を臨時国会で強行的に推し進めるという暴挙に対して、幅広い共闘とともに国民的な議論を広げる時です。

いよいよ臨時国会のスタートです。初論戦に向けても

大学病院の実情をお聞きするにつけ、ここまで経営状況は深刻なのかと正直驚きです。私も病院で勤めていましたが、大学病院や規模の大きな病院は「白い巨塔」「ドクターX」などのように、最先端医療をすれば診療報酬上でそれなりのメリットがあるものだと勝手なイメージを持っていま

ました。しかし臓器移植などの高度医療はやればやるほど赤字、ロボットオペもなかなかペイしない、医師の働き方改革を進める上でも増員が必要だし派遣機能も果たさなくてはならない、いい研究が少なくなっている。高度医療・研究・教育の使命をはたしながら地域医療を支えている大学病院の大変さをはじめてちゃんと知った思いがしました。どの病院も医療の危機。「診療報酬はプラス10%」と思っている。それくらい上がないと立ち行かなくなる」相良先生の言葉を深く受け止めました。

お知らせ
11月は「しんぶん赤旗」日曜版の発行日に合わせて、「民主香川」の発行を変更し、11月2・9・23日付としますので、ご了承下さい。
民主香川社

裁判所に、団地の7つの排水口の写真や、排水料の領収書を見せる中で、①団

地からの排水口が池の水で埋まれば逆流が起きうる。②団地は排水のための使用

ため池逆流裁判④ 新たな真実がつぎつぎ

平池団地自治会 副会長 山庄司 蔵

勇気りんりんエッセイ 参議院議員 白川よう子

料を支払っており、池への排水権は土地改良区と合意があるーことを確認できました。

こうして提出している証拠資料や論点をもとにして一歩ずつ問題を解明してい

きました。そうして事実を押さえながら解決への道筋が明らかになってきたのではないかと思います。

被告は当初より「平池自



裁かれることを恐れているのではないのでしょうか。私たちは、こうして次々と明らかになる事実をもとに、確かな判断がなされるよう、さらに準備を進める決意です。

白川よう子

参議院議員のコメント

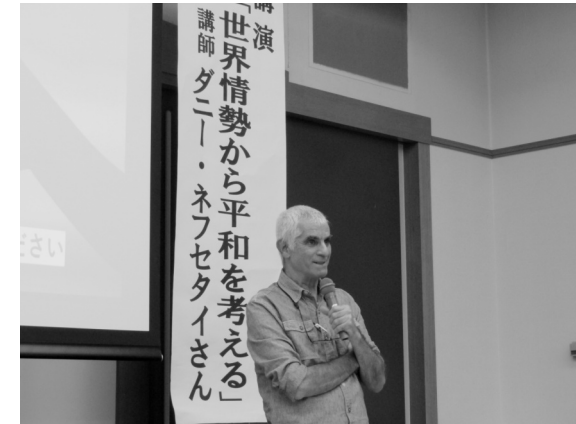
平池の水の問題は県議時代より、みなさんと一緒にごみの解消、水の逆流の解決を目指して取り組んだことを思い返しています。その後も、17年にもわたって解決を求め、いま裁判に至り、住民運動として頑張っておられることに敬意を表します。解決に向けて私も応援しています。

第18回香川県教育研究集会を開催

10月13日、第18回香川県教育研究集会（主催：香大教育学部教組、共催：香教組・香川高教組・香川私教連）がサンメッセ香川で開かれ、教職員・父母・市民・学生など1000人を超す参加がありました。

演では、元イスラエル兵士で、全国で精力的に講演活動を行っているダニー・ネフセタイさんが「世界情勢から平和を考える」というテーマで講演しました。子どもたちが将来、イスラエル軍の戦闘機のパイロットをめざすことが「当たり前」とされている国に育ち、自らもイスラエル空軍で訓練を受けてきた経験から切り出したダニーさんは、日本に来て暮らすことでイスラ

午後からは「香川の教育をよくする県民会議」の第54回総会があり、今の教育行政・教育財政をめぐる課題を共有するとともに2025年度のとりにくみの方針と役員を決定しました。



ストップ・温暖化③ 風 遙

10月1日、気象庁は9月の日本の平均気温は平年を約2.5度上回り、統計開始以降、2023年、2024年に次ぐ第3位の暑さだったと発表。10月も引き続き、暑さに注意を呼びかけています。

では、電力独占体制の何が問題なのでしょう。東京電力をはじめとした旧一般電気事業者は、原発や火力発電所などの発電設備だけでなく、送電網も有しています。これは、旧電力が既得権を維持しうる力の源泉です。電力は電線があつてはじめて供給できるからです。

現在、初夏の日中は九州や東北では再エネだけで100%を超える電力を供給できます。しかし、各地で再エネを送電網に繋がらない接続拒否が頻発しています。旧電力は、既存の原発や火力発電に送電容量を配分して、再エネの拡大を阻害しているのです。

一方、世界各国では発電と送電部門を分離する発送電分離が進んでいます。

世界のエネルギー転換は再エネを中心に進んでおり、原発・火力に固執する日本のエネルギー事情は異質です。再エネのコ



レポート3030：「グリーン・リカバリーと2050年カーボン・ニュートラル」

エルの「当たり前」が「当たり前でない」ことに気づいたことを話し、戦闘機ができることは「人を殺すこと」と「建物を破壊すること」しかないと言いました。また、イスラエルでは「周

囲には必ず敵がいる」と教えられたが、それも間違えだったと日本に来て気づいたと語り、「近隣諸国は敵でない」ことを教えることは大人の責任だと強調しました。

最後に「戦後80年。戦争体験者は年々減っています。次世代に戦争の悲惨さを伝える、次の戦争を避ける責任が、大人の私たちにあります！」と参加者に呼びかけて話を結びました。